

レベル	授業内容
プリスクール	教材:くもん「ひらがなワークブック」 目標:日本語学校最初の年なので、まずは日本語学校に慣れるとともに、日本語での指示の理解を深めることに重点を置いている。また歌、指遊び、工作、本読みなどを取り入れながら、なるべくたくさんの日本語にふれることに力を入れている。ひらがなの清音の勉強もしていく。
キンダークラス	教材:くもん「ひらがなワークブック」 目標:ひらがなの学習、一年を通して、書き順なども楽しく学びながら正しいひらがなを身につけることに力を入れている。濁音・半濁音、促音・拗音・長音も学習し、文章作りへつなげていく(春休み以降はカタカナにも触れていく)。クラス内での先生や友達との会話を多くし、たくさんの日本語を聞けるように工夫した授業を行うと共に、日本の伝統行事を体験したり、お製作・歌・手遊び・読み聞かせ等いろいろな角度から日本語に親しんでいく。
レベル1	教科書:国語一年(上)の終了と(下)の前半まで。このレベルから実際に日本の小学校で使用している教科書を使って日本語を学んでいく。 目標1:日本語で聞かれたことを理解し、それに対し日本語で答えることができる。2:教科書を読んで、話の内容が理解できる。 3:ひらがな・カタカナをしっかり身につけ、新出漢字を習得する。4:日本の文化や遊びに触れる機会を作り、日本の絵本や歌を授業に取り入れる。
レベル2	教科書:国語一年(下)の終了と二年(上)の中盤まで。 目標:1.日本語の質問が理解でき、それに対して日本語で答えることができる。2.教科書の読み物教材を読み、大まかな内容が理解できる。 3.ひらがな、カタカナ、1年生の漢字を習得する。4.歌やゲームなど様々な活動を通して日本の文化や遊びに触れる。
レベル3	教科書:国語二年(上)の終了と(下)の中盤まで。 目標:1.教科書を使って、ひらがな、カタカナ、今まで習った漢字の復習と進出漢字をしっかり学ぶ。2.発表の機会を多く設け、きちんとした日本語を話せるようにする。3.人の話をきちんと聞き、授業に集中できるようになる。4.ゲームや絵本などを取り入れ元気で明るく楽しい授業を進めていく。
レベル4	教科書:国語二年(下)の終了と三年(上)の中盤まで。 目標:1.教科書や読書を通じて、日本語の語彙、表現、漢字の使い方にもふれる。2.日記を毎週書くことにより、身近なことを日本語で表現することに親しむ。 3.クラスで友だちと話し合ったり、発表することで、日本語を発話する。4.日本語を学ぶこと、日本語学校に来ることを楽しむ。
レベル5	教科書:国語三年(上)の終了と(下)の中盤まで。 目標:教科書を中心に、日本語の語彙力・理解力・表現力を伸ばす。既習漢字、新出漢字の定着にも力を入れる。毎週のクラス図書宿題で普段使わない単語や日本語独特の使い方にもふれたり、絵日記を書くことで、日本語で文章を書く機会へとつなげたい。授業では、日本の文化や地理、歴史、日本で人気の活動等などにも適度に触れる。
レベル6	教科書:国語三年(下)の終了と四年生(上)の中盤まで 目標:1.新しい漢字だけではなく、既習の漢字の復習をし、まずは読めるように、そして書けるようになる。2.語彙をふやし、自分の気持ちを表現力豊かな日本語で伝える事ができるようになる。3.教科書の内容に派生した日本の文化や習慣についての知識と理解を深める。
レベル7	教科書:国語四年(上)と(下)の終了。教科書履修の最終学年。国語の教科書のクラスから中高生クラスへ移行する学年として、幅広く日本について触れていくことでこれからの学習に繋げていく。 目標:1.日本語で自分の意見や思いをきちんとつたえることができ、相手の意見も正しく理解できるようになる。2.四年(下)までの漢字を読む事が出来る。三年生までの漢字を使った文章の読み書きが出来る。3.季節や伝統に関連した日本の文化や地理的な理解を深め、歴史にも少し触れる。
中高生1	教材:「日本語能力試験対策 日本語総まとめN3 漢字」(アスク出版)、「国語五」(光村図書) 目標:能力試験N3レベルの漢字、語彙、文法、読解力を身につける。また、日本史や現代カルチャー、文学作品などを通じて、日系人として必要な知識を身につけ、日本語と日本文化についての総理解を深めていく。
中高生2	教材:「日本語能力試験対策 日本語総まとめN3 漢字」(アスク出版) 目標:N3レベルの内容のより高い定着と、N3レベルの漢字、語彙を学び、日本語を総合的に伸ばす。日本史を学び、簡単なニュースを読むことで、現代の日本の成り立ちについての知識を深める。
中高生3	教科書:「日本語能力試験対策 日本語総まとめN2漢字」(アスク出版) 目標:N2レベルの漢字を中心に取り組む。ほかに文学、歴史、時事問題などをとりあげ、日本社会についての考えを広めるとともに、自分の意見を日本語で表現することができるように練習をする。卒業後に自ら日本語を楽しんで使うことができるように、基礎の力を固める。